

パニヒダ

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン

大聯祷

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。
(以下毎次同様)

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

此の世を過ぎ去りし者の罪の赦を得るが為に主に祈らん。

常に記憶せらるる神の僕(婢)〔某〕に安息と平安と福たる記憶を賜るが為に主

に祈らん。

彼(等)が自由と自由ならざる罪の赦されんが為に主に祈らん。

彼(等)が苦難を受けずして畏るべき神の光榮なる台前に立つが為に主に祈らん。

泣き悲しみてハリストスより慰を受くるを望む者の為に主に祈らん。

我等の主神が彼(等)の靈を光る処、茂き草場、平安の処、諸義人の居る処に

安息せしむるが為に主に祈らん。

彼(等)がアウラアム、イサアク及びイアコフの懷に数え置かるるが為に主に祈らん。

彼等及び我等が諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に祈らん。

神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。

彼(等)及び我等に神の憐みと天国と諸罪の赦とを賜わんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん。

主爾に。

蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕(婢)〔某〕の復活と生命と安息な

り、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に。

アミン。

アリルイヤ（三次） 主や、爾が選び近づけし者は福なり。

アリルイヤ（三次）

彼（等）の記憶は世世に至らん。

アリルイヤ（三次）

彼（等）の靈は福に居らん。

アリルイヤ（三次）

彼（等）の靈は福に居らん。

詠

アリルイヤ（三次）

深き知恵と仁慈とを以て萬物を宰り、悉くの者に利益なることを賜う、唯

一の造物主や、爾が僕（婢）の靈を安

ぜしめ給え、彼（等）は爾造成主我が神に侍

を負わしめばなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

讃

詞

（聖歌譜の歌詞に倣つて記載）

信者の救いなる嫁がざる生神女や、我等爾を盾と港及び爾の生みし神に喜ばる
る転達として保てり。

安息のトロパリ（第五調）

（聖歌譜の歌詞に倣つて記載）

〔附唱〕

主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

聖人の群は生命の泉と天堂の門を得たり、願くは我も痛悔を以て道を得ん、我

は亡びし羊なり、救世主や、我を呼び返して救い給え。

〔附唱〕主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

神の羔を傳え、己も羔の如く屠られて、老いざる永久の生命に移りし聖なる致

命者や、我等に債の赦しを賜わんことを切に祈り給え。

〔附唱〕

主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。

狭く苦しき道を通り、生ける中、十字架を輶の如く負い、信じて我に従える衆人や來たりて、爾の為に備えし誉れと天の栄冠を楽しめよ。（以下省略）
光榮は父と子と聖神に歸す、

ひとつの神性の三の光を敬み歌うて呼ぶ、無原の父と同無原の子と聖神や、爾は聖なり、我等信を以て爾に勤むる者を照らして、永遠の火より出し給え。

今も何時も世世に、アミン。
もろびとの救いの為に、身にて神を生みし淨き者や、慶べよ、人の族は爾に因つて
救を得たり、淨くして讚美たる生神女や、願くは我等も爾に因つて天堂を得
ん。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や、光栄は爾に帰す。(三次)

小聯禱

輔 詠 輔 詠 輔 詠
我等復又安和にして主に祈らん。
主憐めよ。
又寝りし神の僕(婢)〔某〕の靈の安息の為、及び彼(等)に凡そ自由と自由ならざ
る罪の赦されんが為に祈る。
主憐めよ。

輔 詠 輔 詠 輔 詠
主神が彼(等)の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

輔 詠 輔 詠 輔 詠
彼(等)に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せ
ざる王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

司 詠 輔 詠 輔 詠
蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕(婢)〔某〕の復活と生命と安息な
り、我等光栄を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も
何時も世世に。

アミン。

司詠

主や、寝りし爾が僕(婢)の靈を安んぜしめ給え。(二次)
光栄は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

附

詠

イルモス第三歌頌

詠
主天の穹蒼の至上なる造成者、教会の建立者、希望の限り、信者の堅め、独人を愛する者や、我を爾の愛に固め給え。

司・詠 附 詠

主や、寝りし爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え。（二次）
光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

イルモス第六歌頌

我祈りを主の前に注ぎ、我が憂を彼に告げん、蓋我が靈は惡に満ち、我が生命地獄に近づけばなり、我イオナの如く祈る、神や、我を亡びより引き上げ給え。

小聯禱

我等復又安和にして主に祈らん。

又寝りし神の僕（婢）「某」の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざ

主憐めよ。

又寝りし神の僕（婢）「某」の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざ

主憐めよ。

る罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。

主神が彼（等）の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

主憐めよ。

彼（等）に神の憐みと天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せ

ざる王及び神に願う。

主賜えよ。

主に祈らん。

主憐めよ。

蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）「某」の復活と生命と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に。

アミン。

小讚詞

ハリストスや、爾が僕（婢）の靈を、諸聖人と偕に、疾も悲も歎
終なき生命の在る處に安んぜしめ給え。

同讚詞

※（左の〔 〕内は省略される」とが多い。）

「人ひとを造つくるりし者ものや、爾そなへは獨ひとりり死死するせざる主ぬしなり、我等われら地ちの者は、土つちより造つくるられて亦また」
土つちに逝ゆくかん、爾そなへ我わたくしを造つくるりし主ぬしの命めいじて我わたくしに言いいしが如ごとし、爾そなへは土つちなり、故ゆゑに土つちに
帰からんと、我等われら人々ひとびと皆みな彼處かしこに往ゆき、」
唯ただ墓はかの上の嘆なげきに歌うたいて云いうべし。アリル
イヤ、アリルイヤ、アリルイヤ。

司・詠

詠輔　主や、寝りし爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え。（二次）
父と子と聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世世に、アミン。
生神女、光の母を、讃歌を以て讃め揚げん。
諸神使と義人等の靈とは爾を讃め揚げん。

天は畏れ、地の果ては驚けり、神は身にて人々に顯れ、爾の胎は天より廣きも

ハラモア第力歌公はおどる

のとなりたればなり、故に神使と人々の群は、爾生神女を崇め讃む。

聖三祝文、至聖三者、主経

誦
聖三祝文、至聖三者、主經
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。 (三次)
光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
至聖二者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の過を赦す
あわれ
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に与え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。
蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

讃

詞

ひと
人を愛する救世主や、死せし義人の靈と偕に、爾が僕（婢）の靈を安んぜ
しめて、彼（等）を爾に在る福樂の生命に護り給え。
主や、爾が諸聖人の安息する處に、爾が僕（婢）の靈を安んぜしめ給え、爾独
り人を愛する主なればなり。

光榮は父と子と聖神に帰す、
爾は地獄に降りて繫がれし者の鎖を釈きたる神なり、
を安んぜしめ給え。
今も何時も世世に、アミン。
ひとりいさぎよ潔く玷なき童貞女、種なくして神を生みし者や、彼（等）の靈の救われ
んことを祈り給え。

輔

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

重聯禱

詠

輔

主憐めよ。（三次）
又寝りし神の僕（婢）「某」の靈の安息の為、及び彼（等）に凡そ自由と自由ならざる
罪の赦されんが為に祈る。

主憐めよ。（三次）
主神が彼（等）の靈を諸義人の安息する所に入れ給わんことを祈る。

詠

輔

彼（等）に神の憐と天国と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我が死せざ
る王及び神に願う。

主に祈らん。

司詠

輔

主憐めよ。
諸の靈神と諸の肉體との神、死を亡ぼし惡魔を虚うし、爾の世界に生命を
賜いし主や、爾親ら寝りし爾の僕（婢）「某」の靈を、光る處、茂き草場、平
安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なる
に因りて、彼（等）が、或は言、或は行、或は思にて犯し悉くの罪を赦し給

え、蓋人けだし ひとり 一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義ぎは永遠の義、爾の
ことば 言は真実しんじつなり。

〔高聲〕
蓋けだし ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の僕（婢）〔某〕の復活と生命
と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに
獻ず、今も何時も世世に。
アミン。

睿智えいぢ。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラファイムに並びなく榮え、貞操みさおを破らずして神言やぶを生み
し、実の生神女たる爾あがを崇め讚ほむ。

ハリストス神我等の恃たのみや、光榮は爾に帰す、光榮は爾に歸す。
福を降せ。

死より復活せしハリストス我等の眞の神は、その至淨なる母、光榮にして讚美た
る聖使徒、克肖こくしょう捧神なる吾が諸神父、亞使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸
人を愛する主なればなり。

アミン。

司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠

聖人の祈禱に因りて、我等に別れし其僕（婢）〔某〕の靈たましいを、諸義人の住所に入れ、
アウラアムの懷ふところに安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん、善にして
人を愛する主なればなり。
アミン。

永遠の記憶

（一、二、のどちらを用いても良い。）

一、福樂に適かないて常に記憶せらるる吾が兄弟（姉妹）〔某〕や、爾の記憶は永遠
なる哉かな。

二、主よ、爾の寝りし僕（婢）〔某〕に、其福そのさいわいなる寝りに於ける永遠の安息を与え、
彼（等）に永遠の記憶をなし給え。

永遠の記憶。（三次）

詠 輔 詠 輔 詠 輔 詠